

## 学校の在り方地区検査委員会（第 1 回）における主な意見一覧

1 学校の在り方	1
2 全日制課程の学校配置	5
3 定時制・通信制課程の学校配置	9
4 その他	10

## 1 学校の在り方

地区	主な意見
東青	<p>① 青森市の特色に対応できる人財を育成する必要がある。</p> <p>② 青森ブランド強化、企業DX・GX、起業・創業、洋上風力発電産業、立体観光、アート、医療、デジタル分野、国際的な情報発信、大学連携やまちづくり政策への対応ができる人財を育成するため、特色ある教育環境の整備に努めてもらいたい。</p> <p>③ 小・中学校と連携した取組に期待したい。</p> <p>④ 高校所在地だけでなく地域全体と関わり、体験の地域差が生じないよう工夫してもらいたい。</p> <p>⑤ 青森市が牽引役となって、地域の特性を生かした教育を推進してほしい。</p> <p>⑥ 地域は若年層が「地元で生きる」ことを強く望んでいることから、各校で故郷に貢献する意識の高揚を図るカリキュラムの更なる充実が必要。</p> <p>⑦ 高校と地域が連携しながら、こどもをどう育てていくのかを考えることが大事。</p> <p>⑧ 高校全体の学力向上のため、学力上位校におけるエリート教育や他の高校における学力の底上げを図る教育が求められる。</p> <p>⑨ 将来の生活設計につながるような学びができる学科や特色が高校にあると良い。</p> <p>⑩ 生徒が「行きたい」と思う各校の魅力づくりを強化することにより、ブルーカラーなどの育成が図られると良い。</p> <p>⑪ キャリア教育を充実させれば、スタートアップ企業が増え、地元への定着も見込まれる。</p> <p>⑫ 自治体の技術系職を目指す人財を育成するコースを高校に作ってもらいたい。</p> <p>⑬ 全ての高校に多様性を持たせるのではなく、高校ごとに異なる役割を持たせるのが良い。</p> <p>⑭ 県外から生徒を呼び込むような特色ある高校づくりをしてほしい。</p> <p>⑮ 制服や校則が無く、生徒の自主性に任せる高校をつくっても良いのではないか。</p> <p>⑯ 単位制は不登校経験を有するこどもたちにとって柔軟な学びの環境づくりの方策になり得ることから、拡充を検討してもらいたい。</p> <p>⑰ 学びを途切れさせないための単位制を活用した新しい学びの場も必要。</p> <p>⑱ 支援を要する生徒が増加していることから、多様な受け入れができる体制の構築が必要。</p> <p>⑲ 特別支援学級に在籍していた生徒や不登校経験を有する生徒が増えている中、柔軟な学び方として定時制課程や通信制課程において学習時間の選択などができると良い。</p> <p>⑳ 広域通信制課程への入学者数が増える中、本県の定時制・通信制課程の在り方を見直す必要がある。</p> <p>㉑ 高校の魅力化に向けて、各校のカリキュラムマネジメントに教育委員会も一体となって取り組むことが必要。</p>
西北	<p>① 五所川原市がものづくり産業に力を入れていることや半導体等は将来性が高いことを踏まえると、工業高校は必要。また、建設業はなくてはならない業種であり、土木工学科や建設科の設置を検討してほしい。さらに、五所川原農林高校は、地区的産業の活性化につながる優れた取組を行っているので、農業科もこのまま存続してほしい。</p> <p>② 工業分野において、地域にとって現場で活躍する人財が一番重要であるため、地域で活躍する人財の育成について考えてほしい。</p> <p>③ 自動車整備士が不足しており、このままでは生活や農業を維持できないため、自動車科を設置してほしい。</p> <p>④ 職業教育を主とする専門学科の選択肢を確保してほしい。また、学科改編を行う際は、中学生や保護者が何を学び、社会でどう生かすことができるのかイメージできるような学科名にしてほしい。</p>

	<p>⑤ 県や地区の特徴を考え、将来を見据えた学科の設置が必要。(例:大学進学に重点を置く学科、土木工学科、世界に通用する職業学科、情報化に対応する学科の設置など)</p> <p>⑥ 大学進学校、農林業、土木・建築、工業系を学ぶ高校が必要。</p> <p>⑦ 地域の特色とこどもたちの進路を直接的に結びつけるべきではない。こどもたちをまんなかに置いて考えるのであれば、定員割れや教職員配置等の課題があるかもしれないが、全ての学科を設置してほしい。</p> <p>⑧ 小・中学校と高校との連携が推進されるシステムを構築できればキャリア教育の更なる充実が図られる。</p> <p>⑨ 教育現場でもっと地域を知る活動を行うべき。</p> <p>⑩ 地域の歴史・文化を継承したり、地域と協働したりできるような地域に開かれた学校が必要。</p> <p>⑪ 地域の意向とこどもの意思を尊重するバランスが重要。</p> <p>⑫ ふるさと愛を育てることは当然必要であるが、学校教育において最優先すべきことは、自分の力を精一杯出して頑張るように育てることである。ふるさとはこどもたちが支えるといった考えに偏ることは危険である。</p> <p>⑬ グローバルな視点で物事を考える人財育成が必要であり、国際バカロレア教育を推進するなど、世界の大学進学に役立つ高校が必要。</p> <p>⑭ 「情報教育」、「グローバル教育」、「イノベーション教育」は国が抱える弱点でもあり、青森県の持続可能性を考えたとき、重要課題としてゴールに定め、解像度を高めて取り組む必要がある。</p> <p>⑮ 遠隔教育の制度を活用すれば、こどもたちが自由に学びを選択できるようになる。特に普通科において、デジタル関係の学習等、専門学科のような科目も学べるようになる。</p> <p>⑯ 単位制は学びの多様性が広がる良い教育制度だと思うので進めてほしい。</p> <p>⑰ 工業科の単位制も良いのかもしれない。興味のある科目を勉強するうちに将来が見えてくることもあるし、あらゆる工業製品に電気もITもAIも関係してくるので、学科によって縛りすぎるよりも可能性が広がる。</p> <p>⑱ PDCAサイクルの「D(Do)」や「A(Act)」を見る化し、そのサイクルを繰り返すことを通して教育の質を高めることが重要。</p>
中南	<p>① 農業技術と経営を身に付けた生徒が農業に従事する環境を整備するため、農業高等専門学校を設置すべき。また、中南地区には工業高等専門学校は設置されていないことから、専門知識を習得した人財を必要とする産業が発展しない。このようなことも議論した上で、高校教育改革を行うべき。</p> <p>② 農家を継ぐことを考えている中学生もいることから、農業を学べる環境は必要。</p> <p>③ 職業教育を主とする専門学科の実習を通して、生徒の変容が期待できる。</p> <p>④ 農業高校と特別支援学校を併設し、特別支援学校の先生が兼務できる体制にする。農福連携についても、支援学校の生徒の移動がなく、また、農業高校の生徒も様々な経験ができ、指導力向上が期待できる。</p> <p>⑤ 農業や工業を学びながら、同時に経営やデジタルを学ぶような専攻科も検討してはどうか。</p> <p>⑥ 生徒のニーズを踏まえると、デジタル分野に関する学びができる学校・学科が必要。</p> <p>⑦ 問題解決能力を育てるため、他県で実施している探究科や探究コースのような、特徴ある普通科を設置してほしい。</p> <p>⑧ 高校では、社会を生き抜く力を身に付けさせるべき。</p> <p>⑨ 様々な選択ができ、自分が本当にやりたいことを目指せる高校が必要。</p> <p>⑩ 生徒にとって充実した教育環境を整備し、世界で活躍できる人財を育成することが大切。</p> <p>⑪ 留学先で修得した単位を認めるなど、生徒が高校入学後でもやりたいことができるような高校が必要。</p>

	<p>⑫ 特別な教育的支援を必要とする生徒も行きたいと思えるような高校が必要。</p> <p>⑬ 単位制や中高一貫教育等の教育制度については、しっかり検証し、将来的なビジョンを持った上で検討する必要がある。</p> <p>⑭ 単位制は、選択の幅をどのように考えるかが重要。生徒が将来を想像し、必要な科目の選択が出来る環境を整える必要がある。また、デジタル分野の科目を積極的に取り入れることが必要であるほか、農業（農学）も基幹産業と位置付けるのであれば、この科目に紐付けるクロス教育のような検討をするのが良い。</p> <p>⑮ 現行の単位制は学年制の性質が強いことから、生徒が目標を持って学習できる環境となるのであれば拡充に賛成。</p> <p>⑯ 定時制課程の意義を議論した上で、定時制の在り方についても考えるべき。</p> <p>⑰ 定時制や通信制課程も、様々なニーズに対応するためには重要である。様々な事情や特性をもった生徒が増えており、今後ますます大切な役割を果たす学校になってくる。</p> <p>⑱ 規律ある団体行動の中で、こども自身がどうすればいいかを考える状況も必要であり、共生力と自活心の向上が望まれる。</p>
上北	<p>① 総合学科では、多様な選択科目を開設できることから、結果として少人数による学びも可能。社会の急激な変化に伴い、先行きがますます不透明になっていることから、総合学科のような科目選択が自由にできる高校が必要。</p> <p>② 総合学科の魅力である多様な選択科目群は維持すべき。</p> <p>③ 生徒の多様な学習ニーズに対応するため、総合学科の高校を増やしても良い。</p> <p>④ 現在設置されている職業教育を主とする専門学科は維持すべき。</p> <p>⑤ 農業やDX推進、看護師・医師等の人財確保など、地域の課題解決に係る学科や学校が必要。また、上北地区では農畜産業が盛んであり、後継者育成の観点からも、職業教育を主とする専門学科は存続させるべき。</p> <p>⑥ 上北地区における介護福祉の担い手は非常に少ないとから、介護福祉に係る人財育成のための学びは必要。</p> <p>⑦ 進学に特化した普通科、地域探究を行う普通科など、地域や中学生等のニーズに対応した特色ある普通科への改編も必要である。</p> <p>⑧ 単位制の導入により生徒にとって科目の選択肢が多くなることは良い。</p> <p>⑨ 生徒が学ぶ力を身に付けていく点では、原級留置がなく、柔軟な教育課程の編成が可能な単位制は有効であり、普通科等でも単位制を拡充した方がよい。</p> <p>⑩ 在学中に卒業後の進路希望を就職から大学進学に変更しても対応できる学校が必要である。</p> <p>⑪ 遠隔授業を県内一円で充実させ、入学した高校では開設していない科目等でも学べるような仕組みを設け、単位取得・資格認定等の道を作ることが必要。</p> <p>⑫ 通級による指導については、全日制課程の高校への拡充を検討すべき。</p> <p>⑬ 特別な教育的支援が必要な生徒や不登校生徒に対応できる高校が必要。</p> <p>⑭ 地域に愛着を持ち、学び続ける姿勢を育てるためにも、生涯学習の重要性を小さい頃から伝えていくことが必要。</p>
下北	<p>① 地区懇談会で出された意見を反映してほしい。また、アンケートでは、スポーツ科学科、工業科に進学したいという意見があったため、このような学科の設置をお願いしたい。</p> <p>② 田名部高校において、普通科に特進コースなどを設置してほしい。</p> <p>③ 田名部高校や大間高校において、学際教育科、地域連携科などの設置を考えてほしい。</p> <p>④ 理系人財が不足していることや、原発産業や防衛産業は100年先も残る可能性があることなどの観点でこの地域をどう支えていくのかを考える必要がある。そういう意味では、理系に寄った学科や特進コースなども必要。</p>

	<p>⑤ 下北地区には原子力施設があり、日本のエネルギー問題を考えると原子力発電は避けて通れないことから、下北地区統合校に原子力エネルギー科を設けてはどうか。</p> <p>⑥ 遠隔授業などのテクノロジーを活用した学校づくりに取り組んでほしい。</p> <p>⑦ 全ての高校の配信授業を受けられたり、学校施設設備を利用できたりするなど教育資源を開放し、県立高校の全生徒が共有できるようにすれば良い。</p> <p>⑧ 対面授業などのアナログな部分も大事にしていく必要がある。</p> <p>⑨ 地元の大学との連携・協働もとても大事。</p>
三八	<p>① デジタルスキルを身に付けた人財や主体的に取り組むことができる人財、協働的に働くことができる人財の育成が必要。</p> <p>② デジタルや地域課題の解決、探究的な学びに重点的に取り組むことができる高校が必要。</p> <p>③ 職業教育を主とする専門学科では学べないような横断的な学びを提供する高校が必要。</p> <p>④ 農業の人財育成の観点から、農業高校は地域に必要。</p> <p>⑤ 人財育成の観点から職業教育を主とする専門学科は必要であり、入学者数を確保する施策が必要。</p> <p>⑥ 地域の特色として、農業や水産業、商工業に関する学びは次の担い手を育成する意味で必要。極論を言えばすべての分野において通用する人財を育成することが必要。</p> <p>⑦ 学力（普通科）プラス特定職業のスキルを学ぶ学科が必要。例えば、普通科と産業科を組み合わせた学校など。また、どの学校でも、ポータブルスキルを身に付けるほか、政治や税金の仕組みを理解できるようにする必要がある。</p> <p>⑧ 高校には地域の跡取りを育てる役割もある。</p> <p>⑨ こどもが自由に目標を持つことは否定しないが、こどもに地域で活躍することを目標としてもらうような取組も必要。</p> <p>⑩ コミュニティ・スクールの仕組みを活用して地域の声を聞くのも良い。異校種間の交流や、幼保、大学との交流など、「地域とともにある高校」に向けた切り口になる。</p> <p>⑪ 高校でもコミュニティ・スクールの拡充を進め、小中高で連携しながら地域の魅力を発信するのが良い。</p> <p>⑫ 遠方の高校の授業をオンラインで受講し、在籍校の単位に互換させることも考えられる。</p> <p>⑬ 高校では、人とのつながりやお金について学ぶことが必要。</p> <p>⑭ 高大連携を明確にした仕組み作りに期待する。実際に進学までつなげる。八戸高専の専攻科や八戸工業大学、八戸大学との連携が想定される。</p> <p>⑮ 求められる高校とは、大学進学・就職の為のスキル、高校での経験などを経て、その後の進路が決められる、気が付く、可能性が生まれることが重要。</p> <p>⑯ 中高一貫教育に期待する。現行の実践を検証し、地区にあった形での導入を検討してはどうか。例えば、中学校は学年に2クラス以上は必要だが、高校は普通科に限定せず、いくつかの科を選択できるように準備して、6年間で付けさせたい力を明確にした上で教育課程を編成するなど。</p> <p>⑰ 私立の通信制高校が選ばれているため、定時制・通信制課程の在り方を検討する必要がある。</p>

## 2 全日制課程の学校配置

地区	主な意見
東青	<p>① 青森市西部の高校は通学圏内であるため、通学時間や利便性に配慮することが大事。地域に高校がなくなると地域の活力が失われるため、地域性についても考えてもらいたい。</p> <p>② 通学の負担を踏まえ、東部に学校配置が偏らないようにしてもらいたい。</p> <p>③ 学級減は避けられないとしても、様々なコースの存続や魅力ある高校づくりという点では、青森市内の高校は現状のまま配置してほしい。</p> <p>④ 地域の思いを考えれば学校配置は現状を基本に考えるのが良く、学校規模は適切に対応してもらえば良い。</p> <p>⑤ 生徒数の減少に伴って学級数も減らさなければならぬのは仕方ないが、各校満遍なく減らした方が良い。</p> <p>⑥ 満遍なく学級減するとなると、高校としては3～4学級はあってほしいので、前期は青森高校、東青地区統合校、青森東高校、青森北高校の普通科、青森工業高校、青森商業高校から、後期は青森高校、東青地区統合校、青森東高校、青森北高校の普通科、青森南高校のグローバル探究科、青森中央高校、青森工業高校から、それぞれ1学級減らしていくのが順当。</p> <p>⑦ 志望倍率が高い高校は学級減を考えなくても良い。選ばれる高校を目指して、中学生や保護者が求める高校をつくるといければ良い。</p> <p>⑧ 多様なこどもたちのニーズに対応するためにも、現状の学科は維持してもらいたい。</p> <p>⑨ 専門性のある学科は必要。学科の維持は最低限必要であり、可能であればニーズを踏まえて新たに創設することを視野に入れても良い。</p> <p>⑩ 工業高校や商業高校は専門的な学びができる高校なので残した方が良い。</p> <p>⑪ 持続可能な社会のために、専門高校は統廃合すべきではない。</p> <p>⑫ 産業教育を行う学科は、これからの中社会を見据えたキャリア教育を考える上でとても重要であり、統廃合の対象にすべきでない。</p> <p>⑬ 県で予算を確保して少人数学級編制を実施し、学級数を維持することも検討してもらいたい。</p> <p>⑭ 中学生の多様なニーズに対応するためには、財源の問題はあるが、少人数学級編制や単位制導入を検討する必要がある。</p> <p>⑮ 少人数学級編制の実施等により、高校を維持してもらいたい。</p>
西北	<p>① 通学できる範囲に音楽や美術、農業や工業を学べる高校を配置するなど、多様な選択が可能な学校配置をしてほしい。</p> <p>② 今の学校配置を維持すべき。前期実施計画期間は統廃合しないでほしい。</p> <p>③ 当地区は普通科が多いため、五所川原工科高校の普通科を1～2学級減ずることが望ましい。それにより、五所川原高校がかつてのような切磋琢磨できる環境となる。2学級減であれば、職業教育を主とする専門学科及び総合学科の学級減は控えてほしい。</p> <p>④ 五所川原工科高校の普通科を減らして公立高校普通科の受検倍率を上げることで、地域全体の競争心・学力の底上げが期待できる。また、それが大学等への進学を目指さない生徒の工業科入学の動機付けになる。</p> <p>⑤ 五所川原工科高校の普通科を他の普通科に集約すれば良い。同校が工業科だけとなることで学校の特徴が際立つ。</p> <p>⑥ 基幹産業の担い手を育成する学科を減らすことは想像できない。予算の確保が難しいのは分かるが、基幹産業の推進に向けて農業科の学級数を増やすといった未来像を描いても良いのではないか。どうしても2学級を減ずるのであれば、職業教育を主とする専門学科を対象とするのは反対である。</p>

- ⑦ 2クラス減については、もう少し議論が必要。地域の特色を活かしつつ、子どもの傾向に対応した改革であるべき。
- ⑧ 学級減で対応する場合の課題として、対象校がいずれ募集停止となるといったネガティブなイメージを持たれ、進学先として選択されにくくなることが予想される。一方、効果としては高校を残すことができる。
- ⑨ 統合で対応する効果があるとすれば、部活動の活力が保たれることが挙げられるが、活力維持の方法は様々ある。
- ⑩ 統合で対応する課題は、学校の目指すものがはっきりしないことや学校数が減ること。
- ⑪ 五所川原農林高校と五所川原工科高校を統合する案は良い案である。農業と工業の連携もでき、青森県、西北五地域の産業の維持・発展のためにもなる。ただ、五所川原工科高校は増改築をしたばかりなので、移転や新校舎の場所の選定など課題は多い。
- ⑫ 持続可能な社会のつくり手の育成の観点からは、未来の理想形を持った上で検討する必要がある。五所川原農林高校と五所川原工科高校の統合という意見があつたが、それは、専門性が失われるだけで魅力的になるとは思わない。
- ⑬ 現在の学級数及び配置を維持すべき。どうしても募集人員を減らす必要があるならば、1学級当たりの生徒数を減らして対応すべき。
- ⑭ こどもを真ん中に置いて考えると、少人数学級編制の拡充により、多様な学びの場を確保すべき。
- ⑮ 義務教育段階において、様々な特性を持った児童・生徒が一定数いる中、高校でも手厚い指導が必要であるため、少人数学級編制の拡充に賛成である。
- ⑯ 県内の実情を考慮し、本県独自の少人数学級編制とし、定数外の教職員は、県の予算で確保すればよい。
- ⑰ どの市町村でも地元から高校がなくなるというのは非常に大きな問題であるため、1学級当たりの生徒数を減らして、学級数を維持してほしい。それに伴う教職員数の確保については、県と自治体の双方がアイデアを出し合いながら仕組みづくりを行うべき。
- ⑱ 県内の高校進学を希望する全てのこどもが平等に学ぶ機会を与えられる「地域共育校」の設定や通信制の導入は素晴らしい改革だと思う。

- 中南
- ① 学級減は、立地条件ではなく、定員割れとなっている高校から減ずることが考えられる。
  - ② 2クラス減の場合は、普通科と専門学科を各1クラス減ずるのが良い。
  - ③ 中南地区は第1次産業が特色であることから、人財育成の観点から、農業科等の職業教育を中心とする専門学科の学級減を倍率のみで判断することには慎重になるべき。
  - ④ 職業教育を主とする専門学科を1学級減ずるのは、学びがこの地区からなくなることに繋がるので、学級減は慎重に判断すべき。
  - ⑤ 県立全日制は、進学と地域専門性学科の強化、地域共育校に絞るべき。
  - ⑥ 統合は地域に非常に大きな影響がある。
  - ⑦ 小規模校は私費が少なく、生徒の活動費も少なくなる。予算の点でも、ある程度の規模の高校にする必要がある。
  - ⑧ 中学生やその保護者は、高校を選ぶ際に通学の利便性を重視するため、通学環境に配慮して高校を配置すべき。
  - ⑨ 私学との差別化と魅力発信さえできていれば、通学の利便性は考えなくて良い。
  - ⑩ 高校においても少人数学級編制を導入し、1学級当たりの定員を減らすことで学級減を実施しないことも考えられる。
  - ⑪ 中学校卒業予定者数が減少する中、学級減や統合等で対応するのではなく、生徒一人一人にきめ細かな指導を行うため、少人数学級編制を導入することも考えられる。

	<p>⑫ 少人数学級編制という方向性があるのであれば、定数を減じて学級数をそのままにすることも考えられる。そのことによって、先生の数を減らさなくても良くなり、きめ細かな指導と支援につながる。</p> <p>⑬ 前回の統廃合により残っている学校や学科はこれ以上減らすべきではない。</p> <p>⑭ 定員減を希望する。普通科、商業科、家庭科などは1クラス30～35名、農業科や工業科、水産科などは25～30名。実習がある専門学科は多様な生徒が入学してくることから、安全面を考慮する。個別指導が可能になり、生徒の変容にも大きく関わる。</p>
上北	<p>① 高校が閉校となることで、経済的に通学が困難となる生徒もいることから、現在の学校配置を維持すべき。</p> <p>② 上北地区は県内6地区で最も圏域が広い。生徒の教育を受ける環境は地域によらず平等であると考えるため、今ある高校は維持すべき。</p> <p>③ 6地区ごとに削減学級数を決めるのではなく、より広範囲の地区割で削減学級数を考える必要がある。</p> <p>④ 削減学級数は県全体で考えるべき。青森市、弘前市、八戸市に生徒が流出していることを踏まえると、西北や上北の高校の学級減ではなく、3市の大規模普通高校の閉校も考えられる。</p> <p>⑤ 普通科がこれまでと同様に均質的なクラスで教育活動を展開するのであれば学級減すべき。</p> <p>⑥ 重点校を解消するのであれば、普通科から学級減を進めてほしい。</p> <p>⑦ 現実的に考えれば、職業学科の精選と普通科の学級減ではないか。</p> <p>⑧ 上北地区は農業人口が多いことから、農業に関する学科は配置すべき。また、既存の職業学科（工業・商業）は普通科以外の選択肢として、さらには地域の人財育成のためにも残すべき。</p> <p>⑨ 職業教育を残すために、統合して総合学科とすることも一つの方法ではないか。統合後も校舎を移転せず、そのまま使っている学校が全国にはある。</p> <p>⑩ 六ヶ所高校は地域への貢献度が高く、村としても様々な支援をしていることから、存続をお願いしたい。</p> <p>⑪ おいらせ町は子どもが増えており、地域にとって百石高校は必要であることから、学級減や募集停止はせずに入学者数が増加するような取組をお願いしたい。</p> <p>⑫ 交通費や送迎に困難を抱える家庭もあることから、自宅から通える高校が必要。</p> <p>⑬ 少人数学級編制を実施し、学級数を維持すべき。</p> <p>⑭ 少人数学級編制の実施は、教員の働き方改革にもつながる。教員は学習指導以外にも保護者対応など様々な業務がある。教員の質の確保が一層求められることから、教員の働く環境を整えるためにも1学級当たりの生徒数を削減すべき。</p> <p>⑮ 高校でも少人数学級編制を実施できないか。</p> <p>⑯ 標準法で定められている教員定数にプラスして県裁量で教員を配置するなどの大きな覚悟で臨んでほしいと願う。</p> <p>⑰ 「地域校」から「地域共有校」に変えたことは、機械的閉校になることを見直す形となり、特に野辺地地域にある町村等にとって歓迎すべきことありがたい。</p>
下北	<p>① 田名部高校、下北地区統合校、大間高校を存続させることで、下北地区的教育の質を保障できる。</p> <p>② 田名部高校の募集定員を減らせば、大間高校を希望する生徒は必然的に増えると考える。</p> <p>③ 将来的には田名部高校と下北地区統合校の1校2キャンパス制も考えられる。教員の兼務や単位制を生かして、生徒が学びたい授業を受けられる環境を作れないか。</p> <p>④ 県が責任をもって道路やスクールバスを整備するのであれば、将来的には大間高校がなくなつても仕方ない。</p> <p>⑤ 1学級40人の学級を1つ減らすのではなく、1学級35人にすれば8学級で40人減という考え方もあると思う。</p>

	<p>⑥ 1学級40人の学級編制の見直しを検討してほしい。</p> <p>⑦ 高校標準法で学級編制が定められ、これに基づき交付税が算定されていると思うが、教育にお金は惜しまないという気持ちがあれば、30人学級も可能。これは知事の判断だと思う。</p> <p>⑧ 生徒や教員が減ることが必ずしも悪いことではなく、そのことによってきめ細かい指導ができる等もあると思うので、逆に強みにできるような考え方や仕組みづくりが大事。</p> <p>⑨ 生徒が減ることにより配置される教員の数も減ることを心配している。生徒が学びたい教科を専門の免許を所持している教員から確実に学べるように教員数の確保をお願いしたい。</p>
三八	<p>① 八戸西高校は高倍率を維持しており、三戸郡の生徒にとって通いやすい高校であるため、学級数を維持してほしい。</p> <p>② 八戸西高校は、閉校となった五戸高校の近隣の生徒を受け入れる役割もあると考えるため、現在の規模を維持してほしい。</p> <p>③ 三戸高校や名久井農業高校には三戸郡の生徒が多く在籍しているため維持してほしい。また、三戸郡から公共交通機関で通学することができる八戸西高校も維持してほしい。</p> <p>④ 八戸西高校、三戸高校、名久井農業高校は学級を減らしてほしくない。</p> <p>⑤ 学科の統合を行って2学級分を減じることも選択肢の一つ。なお、これは令和19年度までの11学級減を見据えて行うことが重要。考え方によっては学校が1~2校なくなることもあり得る。</p> <p>⑥ 多様化している中学生のニーズに対応するためには、学級減ではなく統合による対応も考えられる。</p> <p>⑦ 少子化、人口減少の進行、ゆえに地域における生徒数も減少。当然学校の数も調整されてきているし統合も必要なものと考える。</p> <p>⑧ 八戸商業高校の進学率がとても高い。普通科のある学校との統合は考えられないだろうか。</p> <p>⑨ 通学のしやすさは重要な論点である。</p> <p>⑩ 新郷村から公共交通機関を利用して通学できる県立高校は八戸西高校のみであり、他の県立高校に通学する場合、下宿や親の送迎が必要。中学校卒業予定者数が減少する中、統合し、ある程度の規模とした上で充実させていくことも考えられるが、その場合は、通学支援とセットで考える必要がある。</p> <p>⑪ 特に郡部や交通が不便な場所からでも通えるというのが大きなポイント。</p> <p>⑫ 後期実施計画で大規模な再編を行うことを前提に、前期実施計画では少人数学級編制により対応し、教育の質を高めることも考えられる。</p> <p>⑬ 学科をできるだけ減らさず、1学級の人数を減らして対応するという考え方もある。</p> <p>⑭ 少人数学級編制については、学級数を減らしたくないという感情論で議論を進めるのではなく、予算面も踏まえて検討を進めることができが望ましい。</p> <p>⑮ 中学生のニーズは多種多様であるため、学級の人数を減らすという対応は必要。</p>

### 3 定時制・通信制課程の学校配置

地区	主な意見
東青	① 北斗高校の志望倍率が高いという発言があったが、それだけニーズがあるということであり、北斗高校の拡充が必要。それが難しい場合は、各高校において校内支援教室や教育支援科のようなものを設置できないか。
西北	① 五所川原高校定時制を残してほしい。 ② 定時制課程は現在の配置を維持してほしい。通信制課程は3地区への配置で良い。
中南	① 定時制課程の配置は重要視しなければならない。単位制が導入されていることもそうだが、学校生活に馴染めなかった生徒などの受け皿となり得る。
上北	① 不登校の生徒で通信制高校に進学する生徒がいることから、通信制課程を設置する（例えば、交通の便が良い野辺地高校に復活させる）ことはできないか。上北・下北地区に設置されていない通信制の設置を希望するほか、通級実施校の拡充を願う。 ② 既存の普通科に通信制を併設するなど、より多様な学び方を可能にすることで、学校施設を有效地に活用できる。
下北	① 工業高校定時制という選択肢があれば、下北地区の生徒も選ぶ可能性があるのではないか。 ② 夜間定時制への通学が困難なので、 <u>昼間定時制</u> の設置をお願いしたい。昼間定時制は、中学校卒業後の選択肢として必要。また、昼間定時制が設置されるのであれば、昼間部、夜間部の枠を超えて学習時間帯を選択できるようにお願いしたい。 ③ 下北地区に五所川原第一高校の通信制課程があり、棲み分けができるのであればそれでも良いが、北斗高校の通信制課程は、下北地区から遠いためスクーリングが負担であることから、田名部高校にも通信制課程があればさらに良い。
三八	① こどもたちの学習機会の確保に向けて、早めに通信制課程を拡充する方向で考えることも必要ではないか。

#### 4 その他

地区	主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 平内町は面積が広く駅までの移動が大変であるため、スクールバスのある私立高校を選ぶ子どもがいる。通学負担への対応についても検討してもらいたい。</li> <li>② 津軽線の運行がない地域からバスと鉄道を乗り継いで市内の高校に通う生徒もあり、冬は起床時刻も早く大変である。各校の始業時刻をもう少し遅くできないものか。</li> <li>③ 高校には部活動等の魅力もあるが、下校時刻に公共交通機関がなく、部活動に取り組めない生徒もいるため、交通手段等の仕組みを作る必要がある。また、自宅からの通学が難しい場合、下宿などに係る経済的負担への支援を検討する必要もある。</li> <li>④ 偏差値が高い高校に進学させるという考え方を見直したほうが良い。</li> <li>⑤ 満遍なく学級減した場合、配置教員数も減少するため、県として教員を加配できれば教育活動の充実が図られる。</li> </ul>
西北	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 私立高校と更に踏み込んだ協議を行い、良い学校づくりに生かしてほしい。</li> <li>② こどもたちが高校を選択するに当たって、通学環境が重要になる。通学が難しいならば、県が寮を整備し、そこから様々な高校にスクールバスで通学できるようにしてほしい。</li> <li>③ 深浦町には高校が配置されていない。また、年間の出生数は10人程度である。だからこそ、通学できる範囲にある鰺ヶ沢高校の活性化や県教育委員会の同校への支援に期待する。</li> <li>④ こどもをまんなかに置いた報告書にしてほしい。</li> </ul>
中南	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校配置と併せてスクールバスの運行等、通学支援についても打ち出すことが大事である。</li> <li>② 学校に魅力を感じ、通いたいと思う生徒が増えることにより、よほど距離がない限り、頑張って通学する生徒は増える。また、そのようなこどもに親も協力したくなるものである。ただ、親の負担軽減を考えると、こどもたちの状況を調査し、交通インフラなどを可能な限り整備し、環境を整えることも必要。</li> </ul>
上北	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 行政、高校、地域等が一体となった通学支援があれば、中学生にとって高校の選択肢は広がる。</li> <li>② 高校の統合が進んできたことで、生徒の住む場所による通学環境の差異が大きくなっている。県立学校を所管する県の問題として、対策を打ち出し、主導すべき。</li> <li>③ 魅力的な学校であっても通学費用が負担となり、進学を断念せざるを得ないケースがある。そのため、交通費の補助制度やスクールバスの導入など、通学手段への支援を積極的に検討してもらいたい。</li> <li>④ 各県立高校の特色・魅力・重点等が、広く県民にわかるような周知の仕方を工夫・研究すべき。</li> <li>⑤ 職業教育を主とする専門学科や総合学科について、小・中学生や保護者に対して、各校の魅力等を情報発信する必要がある。</li> <li>⑥ 実業系専門高校の中学生対象の学習体験の充実を図るべき。</li> <li>⑦ 遠隔教育を活用して他校の授業を受けられる仕組みを構築することで、各校の魅力向上につながる。</li> <li>⑧ 生徒数減少、高校の統合や小規模化にあっては、夢の実現をめざす生徒にとって、どこで暮らしても、魅力ある学びの場や方法が保障されるような仕組みが必要。</li> <li>⑨ 入試において、高校を「選抜試験実施校」と「面接及び書類審査校」に分け、後者は事実上の無試験入学校とすることを要望する。</li> <li>⑩ 特定分野に際立った能力や技能を持つ生徒の希望に応じ、普通高校に「特別推薦枠・入学枠」を設定し、門戸を広げるようにすることを要望する。</li> </ul>
下北	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 下宿を増やすなど通学時間が短くなるような対応を検討してほしい。</li> </ul>

	<p>② 下北地区では登下校時の公共交通機関が民間供用のバスしかないため、かなりの時間を登下校に費やすことになる。県や県教委でスクールバスを運行するなどの解決策を考えもらいたい。</p> <p>③ 通学支援の一つである高校奨学金通学費等返還免除制度は見直すべき。借りた奨学金の返還を免除するのではなく、通学費を給付すれば良い。通学支援についても実施計画に記載すべき。</p> <p>④ 高校奨学金通学費等返還免除制度の所得制限の見直しなどについては、実施計画を待たずにできるはずなので、検討をお願いしたい。</p>
三八	<p>① 中学校卒業予定者数が減少する中、統合し、ある程度の規模とした上で充実させていくことも考えられるが、その場合は、通学支援とセットで考える必要がある。</p> <p>② 郡部からの通学も考慮し、通学に関する支援や仕組み等も考慮してもらいたい。</p> <p>③ 県立高校には様々な自治体から生徒が通学していることから、県立高校はあらゆる自治体と連携すべき。</p> <p>④ 地理的な要因から教育を受ける機会に差が生じないよう、高校が所在する市町村が他市町村からの生徒の受け入れ態勢を整備するよう県も含めて議論すべき。</p> <p>⑤ 高校の魅力づくりを進めるためには人員の確保が重要であるため、サポーター等の確保に向けた財政措置をしてほしい。</p> <p>⑥ 本県の未来を担うこどものことを考えると、高校の小規模化に合わせて教員数を減少させることは適当でない。</p> <p>⑦ 生徒の全国募集は、私学では普通に行われているが、公立でも要件を緩和して、三戸高校や名久井農業高校以外でもできる仕組み作りがあれば良い。</p> <p>⑧ 現在の高校再編のやり方を踏襲すると、いずれ高校がなくなり、若い世代にとって魅力的でない地域となってしまう。知事部局とも連携しながら今後の方向性を検討してほしい。</p>